

神根中だより

～聴き合い、学び合える居心地の良い学校～

2024年6月号

学校教育目標
主体的に学び合い
心豊かでたくましい生徒



川口市立神根中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1
電話 (048) 296-7025

「一人も独りにしない」授業の実践

校長 松村 一人

5月20日に東京大学名誉教授の佐藤学先生をお招きして、「学びの共同体」の授業研究会（公開授業）を行いました。神根地区9校の小中学校の先生を中心に、岡山県や群馬県（下仁田中学校の全教職員）の先生、ベトナム・インドネシア・ミャンマー・パレスチナなどいろいろな国で「学びの共同体」を広めている国際支援センターの先生、東京大学の大学院生などたくさんの方が視察に訪れました。「学びの共同体」を始めて2年弱。佐藤学先生をお招きするのも4回目となりました。

3、4時間目は全教員による公開授業を行いました。5時間目には焦点授業として、3年2組の青山大輝教諭の国語の授業を体育館にて公開しました。授業の内容は、4つの新聞の同じ記事の読み比べでしたが、大人でも難しいジャンプの課題でした。そして、佐藤学先生をはじめ、皆さんからこんな評価をいただきました。

- ・生徒も先生も毎回すばらしい。
- ・一人も独りになっていない。一人の子どもも独りになっていない。
- ・一人残らず学んでいる。（難しいジャンプ課題に）一人もあきらめていない。
- ・学んでいる姿、雰囲気が良い。学び合っている姿がすばらしい。
- ・一方的に教えるのではなく、生徒が静かに考えている。活発な話し合いではない。（「学びの共同体」では、活発な話し合いや教え合いを求めています。）
- ・〇〇（ある国名）の学校教育とは全く違う。〇〇は遅れていて、教師中心の授業が多い。

私が個人的に一番嬉しかったのは、「一人も独りになっていない」という評価です。ちゃんと目指すべきところに到達しているのだなと感動しました。この評価って一見当たり前のように思えますが、よくよく考えてみるとこれはすごいことだと思います。

私が中学生の頃、ほとんどの先生の授業は、一方的な説明が多く、時々質問に対して挙手・発言もありましたが、板書と講義が中心でした。私はというと、授業中に課題に対して何かを考えたりすることもなく、ただ単に板書をノートに書き写して、お終いでした。そして、試験前になって初めてノーマソを使って、教科書やノートを読んで、そこで初めて理解しようとしたり、覚えようとしたりしていました。授業中は何も学んでいなかったのです。これを「偽装の学び」と呼ぶそうです。

